

ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)

2013年度活動報告

2013.4.1 - 2014.3.31



"つながり"が生み出す、 新しい一歩を。

2013年10月9日、ピースボートの世界一周クルーズが初め て石巻港へ寄港しました。この日、30年に渡って国際交流の 船旅を実施してきた活動と、東日本大震災以降の災害支援 の活動がつながりました。3年目を迎えて、東北被災地の状況 はさらに難しくなった面もあります。声高に風化防止を叫んでも、 それだけで一気に復興が進むわけではありません。それでも、地 元の皆さんと一緒に考え、創り出していく作業のなかにこそ、未 来へのヒントがあるのだろうと思います。

夏は全国各地で水害が発生、その後も伊豆大島での台風 や冬の雪害が続きました。「きちっと組織されていれば、ボラン ティアは必ず役立つ」という気持ちはあっても、これほど広域の 現場にボランティアを十分派遣できるのかという不安もありまし た。そんな時、真っ先に手を上げてくれたのは、石巻の市民や 災害ボランティア・トレーニングの受講者たちでした。いつの間に か、支援や研修を受ける側だった人たちが、緊急支援を始め る上での心強いパートナーになってくれていました。

世界に出ると、日本が見えてきます。長きに渡り、各国で災害 救援に取り組んでいる海外のNGOからは、たくさんの課題を 教えてもらいました。一方で、「防災大国」と呼ばれる日本だか らこそできる貢献があることにも気付かせてもらいました。2015年 の国連防災世界会議では、災害から一人でも多くの命と生活 を守る方法を、世界中の人たちと話し合い、実践につなげてい きたいと思っています。

この一年、これまで個別に積み上げてきた"つながり"が、あち こちで結び付き、新しい発展を見せてくれました。私たちの活動 は、「災害」という厳しい現実と向き合う日々です。それでも、とも に新しい一歩を進むパートナーの輪が広がっていることが、大き な励みになっていると実感しています。引き続き、皆様からのご 支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

> ピースボート災害ボランティアセンター 代表理事 山本 隆





2013年度 活動カレンダー



コミュニティ・スペース 「ピースボートセンターいしのまき」の運営 漁村滞在型の漁業支援「イマ、ココ プロジェクト。」 仮設住宅に情報と笑顔を届ける「仮設きずな新聞」の発行・配布

「ふくしまの声を世界に」フクシマ・アウェアネス・キャンペーン

ニューヨーク「ハリケーン・サンディ」災害救援

「民間防災および被災地支援ネットワーク」の共同事務局

災害ボランティア・トレーニング

福島子どもプロジェクト2013・春「オーストラリアで学ぶ"持続可能な社会とは"」が帰国

「世界一周・石巻ユースアンバサダー」募集開始

ニューヨーク「ハリケーン・サンディ」への第二期支援が終了 「ポスト兵庫行動枠組への市民社会からの提言案策定ワークショップ」共催

防災グローバル・プラットフォーム会合に参加(ジュネーブ)

脱原発に関するピースボート洋上専門家会議に福島ゲストを招待(フランス~スウェーデン) オクラホマ巨大竜巻 緊急支援を開始

新編集体制で「仮設きずな新聞」を再刊、石巻市内7,000世帯に配布エリアを拡大

6月 オクラホマ巨大竜巻 緊急支援が終了

「世界一周・石巻ユースアンバサダー」が横浜港を出航

「フクシマ・アウェアネス・キャンペーン」に福島の大学生が参加(ヨーロッパ~カリブ諸国) 7月

石巻・週末交流プログラムを開始

静岡県西伊豆町で大雨災害 緊急支援を実施

8月

山口、岩手での大雨災害 緊急支援が終了

滋賀県甲賀市で台風18号災害 緊急支援を実施

「ネットワークを活用した石巻・女川の産業活性化」プロジェクト開始

ピースボートクルーズが石巻港に初寄港、「石巻ユースアンバサダー」も帰国 10月

伊豆大島で台風26号災害 緊急支援を開始

フィリピン台風30号 災害救援を開始 11月

「第2回防災トレーニング・キャンプ」を実施

12月 「2013年災害ボランティア報告会in東京」を実施

「2015防災世界会議日本CSOネットワーク」を設立(共同事務局) 1月

伊豆大島での台風26号災害 緊急支援が終了

「広域大規模災害時のボランティア活動の体制検討ワークショップin高知」に参加 2月

静岡県小山町、山梨県北杜市で大雪災害 雪かきボランティアを実施

「だから、石巻へ行こう」プログラムを実施

「第9回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」に参加

「311東日本大震災 市民のつどいーPeace On Earthー」にブース出展・ステージ登壇

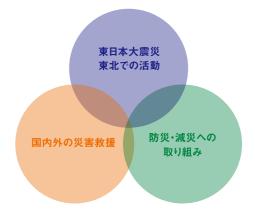
「民間防災および被災地支援ネットワーク」で『災害支援の手引き』を発刊

ニューヨークNPO「WCC」代表のリサ・オーロフさんが来日、イベント・東北視察

福島子どもプロジェクト2014・春「異文化を体験するアジア国際交流の旅」を実施

人こそが人を支援できる ということ

【PBVの活動】



ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)は、東日 本大震災を受けて2011年4月に設立した一般社団法 人です。"国境を越えた災害支援は、地域や世界の平 和をつくる"という国際交流NGOピースボート(※裏面 参照)の想いを受け継いで、「東日本大震災 東北での 活動」「国内外の災害救援」「防災・減災への取り組 み」の3つの分野で活動を行っています。







「行くこと」から始まる3年目の復興支援 —ピースボート世界一周クルーズが、石巻港に初寄港!—

東北被災地では、鉄道網の全面復旧や街の再開発にまだ多くの時間がかかります。将来への不安から街を離れる人もいます。一度に大規模な人数を必要とするボランティア作業も少なくなりました。現場へ足を運ぶ機会が減るにつれ、風化という問題が浮上してきました。日本全国また世界各国からの参加者約800名を乗せたピースボートの船旅が初寄港したのは、そんな震災から3年目の石巻でした。地元の市民約3,000人も駆けつけ、盛大かつ意義深い交流ができました。

※受け入れには「石巻港大型客船誘致協議会」(石巻市、東松島市、女川町、松島町)をはじめ、たくさんの地域の皆様に ご協力いただき、慶長遺飲使節船出帆400周年記念事業として「ウェルカムフェスタ2013」も開催していただきました。







石巻ユースアンバサダー

公募から選ばれた崎村周平さん(女川町出身、写真左)と高橋さやかさん(石巻市出身、右)は、「世界一周・石巻ユースアンバサダー」として、世界18ヶ国20寄港地を巡りました。ベトナム、イタリア、ジャマイカなどで被災体験を伝えるとともに、復興につながる出会いと学びを持ち帰りました。

当日のプログラム

- A 石巻の方たちと出逢う街歩きと震災語り部
- B プチボランティア作業と震災語り部
- C 石ノ森萬画館復興の歩みと震災語り部
- D 復興まっただ中の街·女川町を訪問
- E 石巻の漁村で漁業体験
- F 支倉常長ゆかりの地巡りと被災地視察
- G 親子で半日ボランティア作業体験
- Ⅱ 被災地石巻を巡る
- ■「イマ、ココ プロジェクト。」ボランティアと漁師が再会・BBQ
- 」日本三景・松島1日観光

だから、石巻へ行こう!

東北の現状を知るには、現地に足を運ぶことが一番です。延べ30万人ものボランティアが訪れた石巻ですが、時間が経つにつれ、ボランティアだけでないプログラムが求められるようになりました。2014年3月には、朗読劇や写真展、語り部などの多様なプログラムを行い、約200名の人が石巻に足を運んでくださいました。また、週末の短期間で震災当時の様子と現状を知ることができるスタディーツアーを計画したり、防災・減災に役立てるための視察を受け入れたりと、積極的に「行くきっかけづくり」に取り組みました。



仮設きずな新聞



※石巻市社会福祉協議会との連携で、市内約200世帯の「みなし仮設(民間賃貸住宅)」にも配達されています。

2013年3月で一旦休刊しましたが、アンケートから「ほかのメディアでは入手できない別の仮設団地の様子が分かって役立つ」「取り残された不安な気持ちを解消してくれる」など、仮設住宅で先の見えない暮らしを続ける住民の皆さんにとって貴重な情報源かつ心のケアでもあったことが分かりました。6月、新たに医療系の団体や復興街づくりに携わる団体も紙面編集委員に加わり、現在は毎月2回発行で、石巻市内133の仮設団地すべてに配達を続けています。閲覧用や

発行部数 51号~70号(毎号約7,000部、1号からの累計28万部発行)

持ち出し用に設置してくださる施設や店舗も増えました。

配布地域 石巻市内133団地など 実施期間 2011年10月~継続中

イマ、ココプロジェクト。



被災地での漁業支援という枠を越えた、新しいボランティアのモデルとして実施する「イマ、ココ プロジェクト」。震災後に種付けした牡蠣やホヤも、その後二年間をかけて育ち、収穫のお手伝いも増えてきました。日中の作業時間だけでなく、現地滞在で生活をともにすることで、漁師と参加者の仲が深まります。生産者と消費者の垣根のない会話が生まれることにもなり、一度失った販路の再開拓や新商品へのアイデア出しといった展開にもつながっています。

参加者数 432人(日別延べ総活動人数 3,247人)

受け入れ先 11地区35人 ※漁師側参加者数

実施期間 2012年11月~継続中

地場産業を再生、活性化する



震災直後から築いてきた地元の方々との関係、そして支援活動を通じてつながった企業や団体のネットワークを活かし、石巻市、女川町での産業活性化に取り組んでいます。どのように流通先を見つけるのか、どう魅力ある商品を作り出すのか、その担い手をどう育てるかなど、確かに多くの課題もあります。品質や衛生管理について学ぶセミナーを実施したり、ネット通販にチャレンジしてみたり、地域の事業者の皆さんが主体的に関われるよう、一つひとつじっくりと議論しながら進める姿勢を大切にしています。

セミナー「消費者・小売流通が求める製造・品質管理」 「地域資源を活かした魅力ある事業・製品づくりを目指して」の実施 被災地支援を検討する企業との女川町スタディーツアーの実施

ネット通販の試験運用 な

世界で学び、世界に伝える

福島子どもプロジェクト2014・春







異文化を体験するアジア国際交流の旅

旅の期間 2014年3月21日~3月31日

参加メンバー 南相馬市内の中学生12名

主なプログラム:

[シンガポール] 多民族シティ探索、アートワークショップ [スリランカ]JICA青年海外協力隊の研究所や現地NGOの活動現場を見学 [ピースボート洋上]英会話、職業を知るワークショップ、スポーツ大会

※当プロジェクトは、「南相馬こどものつばさ」の一環として協力実施しました。

南相馬市は、現在も残る放射能の影響から、帰還困難、居住制限、避 難指示解除準備など、地区によって生活環境が違います。学校の統廃 合や転校による授業内容の違いなど、保護者や教職員の皆さんは、子 どもたちの学力・体力の低下に頭を悩ましています。思いっきり外で身体 を動かし、海外での様々な体験を通して好奇心を最大限に引き出そうと 続ける「福島子どもプロジェクト」。この春は、アジアでの"国際交流"と将 来の"夢と仕事"をテーマに実施しました。

◆加した子どもたちから/_{*−部抜枠}

今回の旅で異文化だけでなく国境、年を越えた交流、将来のことなど、いろん なことを考え、学ぶことができました。私はこれから外国の人などいろんな方 と交流できる職につきたいと思いました。またシンガポール、スリランカだけで なく、いろんな国の文化をもっと知りたいです。

菅野菜緒さん(原町第一中学校)

シンガポールもスリランカも優しくてとてもフレンドリーな国民性だったので、 すぐに仲良くなれました。僕もその性格を見習いたいです。初めてこのプロ ジェクトに参加して、学んだ貴重な体験を、これからの自分に活かしていき、南 相馬の人達に伝えていきたいです。

志賀匠真さん(石神中学校)

フクシマ・アウェアネス・キャンペーン

日本が経験した原発事故には、国際的な防災・減災の視点からも大きな関心が寄せられて います。だからこそ、福島の方々の体験と教訓を世界中の人々と共有し、二度と繰り返さな いための予防と対策を考えていくことが必要です。北欧で行われた自然エネルギーの国際 会議には、前双葉町長や飯館村の若者を招待。また、ジュネーブの防災会議では二本松市 の農家、ヨーロッパやカリブ諸国では南相馬市出身の大学生による証言会を実施しました。



※「福島子どもプロジェクト」をはじめ、福島への支援活動はピースボート事務局との共同で実施しています。

東日本大震災3年間の活動実績

石巻·女川

三陸沖太平洋岸に位置する宮城県石巻市、女川町は、東日 本大震災によって大きな被害を受けました。ライフラインが寸 断され、避難生活が続く1年目は、大規模なボランティアを組織 し、多様なプロジェクトを展開しました。復興支援の初期段階に あたる2年目は、住民の方々との共同で行うプロジェクトを重視 しました。3年目に私たちが力を入れたのは、住民の孤立や風化 を防ぐための活動。ボランティアに限らず、石巻や女川を訪れる 交流人口を増やす取り組みでした。



3年間の総ボランティア数

日別延べ総活動人数 派遣人数 14.759人

インターナショナル・ボランティア 3,510人(56の国と地域) 企業・団体ボランティア・コーディネート 8,288人(106団体)





ボランティアの活動内容・実績



炊き出し、支援物資 (107.835食/1.800t分)



コミュニティセンターの運営



(清掃、入浴支援など/60ヶ所)



地場産業再生、地元雇用の応援 交流人口を増やす取り組み



民家、商店の泥かき・清掃活動





仮設住宅への生活必需品配布



浜の清掃、養殖や収穫のお手伝い





情報紙「仮設きずな新聞」の 発行·配達(p5参照)



体験・滞在型の漁業支援 「イマ、ココ プロジェクト。」(p5参照)



自然災害に加え、原発事故による被害を受けた福島県。現在も13万人以上の住 民が、県内外で避難生活を送っています。目に見えない放射能への不安で、多くの 子どもたちは大きなストレスを抱えながらの毎日。そんな子どもたちに"夢と健康を"と、 2011年の夏休みから毎年、海外での保養・国際交流プロジェクトを行っています。 また、二度と同じ被害を繰り返さないため、福島の方々を国際会議や海外での証言 会に招待するなど、その教訓を世界に伝える活動も続けています。

証言会の実施国

イタリア/インド/オーストラリア/韓国/ギリシャ/ジャマイカ/スイス/スウェーデン/スペイン/ドイツ/ドミニカ共和国/トルコ/ブラジル/フランス/ベトナム/ベネズエラ/メキシコ



アジア国際交流の船旅 (2011年·夏)



福島×ベネズエラ×ロサンゼルス オーストラリアで学ぶ 音楽交流(2012年·夏)



「持続可能な社会」(2013年・春)



地球サミット「リオ+20 | (2012年リオデジャネイロ)



防災グローバル・プラットフォーム 会合(2013年ジュネーブ)

フィリピン台風30号(セブ島・ビリラン島)





11月、竜巻並みの暴風と津波レベルの高潮による甚大な被害を受けたフィリピン中部の島々への救援活動を行いました。援助要請を受けた国連や軍、国際NGOらが素早く駆けつけましたが、約7,000の島々から成る複雑な地形、また初期医療から農水産業の再生に至るまでの多様なニーズなど、集まった支援団体による連携と役割分担が鍵となる現場でした。PBVでは、島外避難者へのサポート、孤立したコミュニティへの物資配布など、現地自治体や地元NPO、国際NGOなどと協働でプロジェクトを行いました。





実施期間 2013年11月15日~2014年6月 活動場所 フィリピン中部セブ島、ビリラン島 活動内容:

医療介護用品提供(セブ島の避難所)、 家屋修繕キット・キッチン用品の配布(ビリラン島南部226世帯)、 地元NPOによるサマール島、 レイテ島プロジェクトへの資金提供 など

※現地自治体や地元NPO「PGX」「FJERA」「PDRRN」、国際NGO「CWS-Asia/Pacific」をパートナーとして活動しました。

米国オクラホマ巨大竜巻

5月、米国中南部オクラホマ州で最大規模「EF5」の巨大竜巻が発生し、多くの死傷者を出しました。すぐさま緊急支援募金を立ち上げ、その後現地入りしたスタッフは、瓦礫撤去や清掃作業に携わる一方、被災地に集まるボランティアのコーディネートを裏方でサポートするなど、地元の教会やNPOがより効果的に活動できるよう協力しました。

実施期間 2013年5月21日~6月26日 活動場所 オクラホマ州ムーア市 活動内容: 倒壊家屋の片付け・清掃、ボランティア受け入れサポート、 地元NPOへの資金提供

※地元NPO「Serve Moore」をパートナーとして活動しました。



米国NPO「WCC」とのパートナーシップ

PBVは、2012年末から実施したニューヨークでのハリケーン・サンディ被災地支援で、現地パートナーとなった米国NPO「WCC(World Cares Center)」と日米間でのパートナーシップを結びました。2001年、9・11同時多発テロの災害救援がきっかけで設立された「WCC」は、その後、ボランティアの重要性を訴え、米国内外でトレーニングや研修を行ってきました。2014年3月には、代表のリサ・オーロフさんが来日し、今後のプロジェクトに関する意見交換やセミナーを実施しました。



集中豪雨、台風、大雪国内緊急支援



2013年度は、全国各地で多数の水害、雪害が発生しました。PBVでは、7月~9月に静岡、山口、岩手、滋賀での水害、10月には台風が直撃した伊豆大島、2014年2月には静岡と山梨の大雪被害に対してボランティアを派遣し、現地災害ボランティアセンター(災害VC)と協力して緊急支援を行いました。東北や海外での支援と平行して複数の現場で活動することができたのは、東日本大震災以降に培ってきたネットワークや、平時から人材育成に取り組んできた「災害ボランティア・トレーニング」(p10参照)による成果でした。

雫石町(岩手県)

実施期間 2013年8月17日~9月2日

活動人数 日別延べ総活動人数193人(65人派遣

主な活動 清掃作業、災害VC運営サポート



小山町(静岡県)、北杜市(山梨県)

実施期間 2014年2月19日~2月25日

活動人数 日別延べ総活動人数45人(27人派遣)

主な活動 雪かき、災害VC運営サポート



山口市・萩市(山口県)

実施期間 2013年8月1日~9月2日

活動人数 日別延べ総活動人数317人(55人派遣)

主な活動 清掃作業、災害VC運営サポート、

地域交流会での炊き出し

西伊豆町(静岡県)

実施期間 2013年7月22日~7月30日

活動人数 日別延べ総活動人数112人(37人派遣)

主な活動 清掃作業、災害VC運営サポート

伊豆大島(東京都)

実施期間 2013年10月30日~2014年1月31日

活動人数 日別延べ総活動人数273人(50人派遣)

主な活動 清掃作業、災害VC運営サポート



実施期間 2013年9月20日~9月26日

活動人数 日別延べ総活動人数51人(19人派遣)

主な活動 清掃作業、災害VC運営サポート



※国内の緊急支援は各市区町村の、また伊豆大島では東京都の社会福祉協議会やNPOらが運営する 災害ボランティアセンター(呼称が異なることがあります)と協力して活動しました。

石巻の漁師が、初めてボランティアに参加

石巻市牡鹿半島での漁業支援を始めたのは、2011年6月のこと。当時、漁師たちには壊滅的な浜の姿を前に「ボランティアがこれを片付けるのは無理だ」と言われました。それでも、毎日何十人ものボランティアが通い続けるうちに、養殖再開を決めた漁師もいます。「たくさんの支援を受けた。今後どこかで支援が必要な時はそのお返しがしたい」と、2013年9月に募集した岩手県雫石町でのボランティアに6名の漁師が参加。震災後の自分たちの境遇と重ね合わせながら、必死に汗を流す彼らの姿は、今も目に焼きついています。



災害ボランティア・トレーニング





※2013年度の災害ボランティア・トレーニングは、 CWS Japanの助成で実施しました。

※災害ボランティア・トレーニングの企 画運営には、モンベル、家政学会、イー・ コミュニケーションズ、日本ボランティ アコーディネーター協会、減災と男女 共同参画 研修推進センター、WMA Japanにもご協力いただいています。

これまでの実績

東日本大震災で学んだのは、「きちっと組織されていれば、より 多くのボランティアがより多くの被災者の役に立てる」というこ と。将来の大災害に備え、2011年11月に「リーダートレーニン グ | を開始、2012年9月からは「災害ボランティア入門 | 「災害 ボランティア検定」「スキルアップ&ネットワーク」のプログラム を加え、全国各地で研修を行っています。

受講者数、開催回数•地域(2011年11月~2014年3月)

災害ボランティア入門 1.604人 102回 北海道/宮城/埼玉/東京/神奈川/愛知/大阪/奈良/ 京都/兵庫/広島/山口/徳島/福岡/大分/ピースボート洋上

災害ボランティア検定 489人

リーダートレーニング 458人 38回 宮城/東京/神奈川/愛知/大阪/福岡/ピースボート洋上

スキルアップ&ネットワーク 99人 東京/埼玉/宮城

「支援に行く側」の人材を育てる。





「ボランティア元年」と呼ばれた阪神・淡路大震災では、 たくさんのボランティアが駆けつけたものの、彼らを受け 入れる仕組みがなく、その後「受援力」の必要性が叫ば れるようになりました。同時に、被災地という非日常の現 場では、ボランティアが事前に自分の役割を把握してお くことが、受け入れる側の負担を減らし、効果的な支援 活動につながります。少子高齢化が進む日本社会にお いて、将来、ボランティア不足に陥らないためにも、「支 援に行く側」の人材育成に力を入れています。

2013年度の実績

災害ボランティア入門 962人(実施65回) 災害ボランティア検定 137人(インターネット検定) リーダートレーニング 199人 (実施15回) スキルアップ&ネットワーク 47人(実施2回)



東日本大震災では、たくさんの外国人がボラン ティアに参加し、日本語が不慣れでも「支援す る側」の担い手として活躍できることを証明しま した。英語版の「災害ボランティア入門」の実 施など、多文化社会での災害対応に向けた取 り組みも行っています。

トレーニングで学んだことを現場へ。



種類	地域名	延べ人数	派遣人数	入門	検定	リーダー	スキル
水害	西伊豆町	112人	37人	14	7	15	4
水害	山口市、萩市	317人	55人	16	7	11	4
水害	雫石町	193人	65人	11	9	10	0
水害	甲賀市	51人	19人	9	5	5	3
水害	伊豆大島	273人	50人	15	11	13	4
雪害	小山町、北杜市	45人	27人	9	6	8	8

災害ボランティア・トレーニングは、「学ぶため」だけでなく「実践するため」の トレーニングと位置づけて実施してきました。2013年度、国内の緊急支援 (p9参照)に参加したボランティアからの声をご紹介します。













2013年の夏にリーダートレーニングを受講した後、(伊豆大島が)初 めての災害ボランティアへの参加でした。ボランティアとしての活動や生 活を通して学ぶことが多く、良い経験となりました。実際に、家の中や周 囲で清掃などの作業をしていると、土砂崩れの被害の大きさや作業 の大変さを体感しました。また、大島に住んでいる方を含め、自分の想 像よりも多くのボランティアが活動していることに驚くとともに、それでも人 手が足りていない状況も見て取れました。もっと多くの人にボランティア 活動に参加してもらうため、今回の経験を周囲の人に伝えることも重要 伊豆大島でのボランティアに参加 であると感じました。 井川裕介さん(東京都在住、学生)

私自身 3.11により被災者という立場を経験しており、「日本のどこに いても、いつ災害に襲われてもおかしくない」と思い、ピースボートの 船旅でトレーニングを受講しました。帰国して直後に、それを役立て るべき時が来たことに少し不安もありましたが、全国・世界中から支 援して頂いたことへの感謝もあり、一歩踏み出しました。西伊豆町で は、地元の迅速な対応と地域の方々や小・中学校の災害に対す る意識の高さに驚き、初めてボランティアに参加した私は助けられる ことの方が多かったと思いました。私にとってのボランティアは「ありが とう」を伝える場でもあるので、経験を積み、もっと活動を続けていき

西伊豆町、雫石町でのボランティアに参加 熊谷江美さん(石巻市在住、フリーター)

ボランティアへのメッセージ

この度は、突然ボランティア受け入れの役目になり、大変多くのボランティアの 方に来ていただき何もわからないまま数日間が過ぎました。しかしこの間、初め てお会いした多くの皆さんに応援していただき、しかも折に触れて適切な助 言をしていただきました。なかでもピースボートさんは暑い一日の活動が終わっ た後でも、どこにそんなにエネルギーがあるのだろうと思うほど明るく笑顔で接 していただきました。私たち職員もそうでしたが、被害を受けられた阿東の方々 も、やさしく明るい笑顔でたくさんの温かいエネルギーをいただいたと心より感 謝しています。

福口雅夫さん(山口市社会福祉協議会阿東支部 事務局長)

発災から2日後の10月18日に災害ボランティアセンターを開設しましたが、そ の運営は未体験の連続でした。特に「現場調査」「マッチング」「活動現 場での効果的な指示しと、災害ボランティアのコーディネートに関して全くノウ ハウがなかったところ、ピースボートの皆様には、豊富なご経験を元に貴重 なアドバイスを多数いただきました。また、活動全般にわたって非常に統率の とれた団体で、毎日の設営から片付けまでセンターの運営を支えていただき ました。被災者支援にあたっては寄り添っていく姿勢を。島内ボランティアに はリーダー育成の必要性を。「まず地元ありき」の視点でご活動いただいた ところにも深い感銘を受けました。

鈴木祐介さん(大島社会福祉協議会災害ボランティアセンター 副センター長)

備える。つながる。支えあう。

2015防災世界会議日本CSOネットワーク(JCC2015)



2015防災世界会議 日本CSOネットワーク



2015年3月に仙台市で開催される「第3回国連防災世界会議」に 向け、東日本大震災における教訓や課題を世界と共有しようと、東 北被災地での活動実績を持つNGO/NPOなど約80団体が集ま るネットワークを設立しました。PBVは、共同事務局の一員として、そ の会議で策定される国際的な防災の指針[HFA2(兵庫行動枠組 2)」への提言活動、UNISDR(国連国際防災戦略)や海外の主要 NGOとの連携、外務省、内閣府、仙台市などの国内の関連機関と の調整を行っています。

※国際NGOピースボートは、国連経済社会理事会との特別協議資格を持つNGOとして、第3回国連 防災世界会議のNGO部会公式Organizing Partnerになりました。

[JCC2015ホームページ] http://icc2015.net/ [ほか共同事務局] 国際協力NGOセンター、ふくしま地球市民発伝所、CWS Japan

民間防災および 被災地支援ネットワーク(CVN) W 機災地支援ネットワーク



社員ボランティア派遣など、東北支援に携わった民間企業・NPO・中間支援組織など を中心に、当ネットワークでは2011年11月より隔月で定例会を実施してきました。東日 本大震災からの復興に向けては、企業の特徴や社員のプロフェッショナル性を活かし た女川町の産業再生に取り組んでいます。また、将来の災害に向けて、「ヒト、モノ、カ ネ、情報」の分野での実務上のノウハウをまとめた実務書『災害支援の手引き』(民間 企業11社・4団体の担当者らの執筆・編集)を発刊しました。



[CVNホームページ] http://cvnet.jp/ [ほか共同事務所] 日本アイ・ビー・エム/サノフィ/日本財団/ジャスト・ギビング・ジャパン/ オンザロード



防災まちづくり

街の商店主、地主、建築や都市計画の専門家やNPO/NGO職員 など、それぞれに想いを持った人たちが集まって作った「石巻街なか 復興ビジョン」。PBVも参加する防災まちづくり事業「一人一人がつ くる安全安心のまちづくり」は、その大きな柱のひとつです。大津波で 被災した場所だからこそ、住民が主体となって自分たちの安全を守ろ うと、地域住民の意識調査を行ったり、新たな仕掛けを取り入れた避 難訓練を実施したりと、行政や住民、専門家の垣根を越えて活動し ています。

[石巻 街なか復興ビジョン] http://www.ishi-machikvou.com/fukko-vision.pdf [防災まちづくり会議メンバー] コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会/みらいサポート石巻

防災教育・講演・イベント実施一覧 ※災害ボランティア・トレーニングなど主催・共催したものは除く

東北被災地の現状を紹介したり、ボランティア活 動を普及させるため、「災害ボランティア・トレーニ ング」の他にも、全国各地で講演や防災教育の 授業に取り組みました。

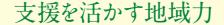


4月 モンベルクラブフレンドフェア2013春 横浜、大阪(ブース出展)/石巻好文館高校(防災教 育)/町田市立堺中学校(防災教育) 5月 第8回ロハスデザイン大賞(ブース出展)/TOKYO METROPOLITAN ROCK FESTIVAL 2013(ブース出展) / 震災を風化させない(講演) / 防災グ ローバル・プラットフォーム会合(国際会議) 6月 石巻広域の若者支援・復興の現状と課題から持続可 能な支え合える地域の創造に向う仕組みづくりへ(講演)/中央大学商学部流通政策論(防災教育) /都立園芸高校(防災教育)/東京女子大学現代教養学部(防災教育)/石巻専修大学復興ボラ ンティア学(防災教育)/武蔵大学社会学部(防災教育)/湘南工科大学ボランティア論(防災教育) 7月 早稲田大学特別講義(防災教育)/金沢キリスト教会(講演)/東北福祉大学総合マネジメント学 部(防災教育)/石巻専修大学復興ボランティア学(防災教育) 9月 Link to Peace vol.16(講演) / 龍谷大学東北視察(防災教育) 10月 まつど生涯学習大学講座(講演)/都立中野工業高校(防災 教育)/CLAIR自治体国際化協会(研修)/川崎市立商業高校(講演)/モンベルクラブフレンドフェ ア2013秋 千葉(ブース出展)/静岡県ボランティア協会(研修)/石巻ユースアンバサダー報告会(報 告会) 11月 都立紅葉川高校(防災教育)/モンベルクラブフレンドフェア2013秋 大阪(ブース出展) /新宿NPO協働推進センター(講演) 12月 石巻三校PTA協議会(防災教育)/ひょうご国際交流団 体連絡協議会(研修)/湘南工科大学ボランティア論(防災教育)/石巻中学校(防災教育)/日本ケ アフィットサービス協会(講演)/フィリピン災害救援先遣報告(報告会)/東洋大学国際地域学部(防 災教育) 1月 防災とボランティアのつどい(講演)/伊豆大島支援 中間報告会(報告会) 2月 第37 回雫石町社会福祉大会(報告会)/よこはま国際フォーラム2014(講演)/広域大規模災害時のボラ ンティア活動の体制検討ワークショップ in 高知(防災訓練) 3月 モンベルクラブフレンドフェア2014 春 横浜、大阪(ブース出展)/第9回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓 練(防災訓練)/Smile! Fukuoka to Tohoku(ブース出展)/311 東日本大震災 市民のつどい(ス ピーチ・ブース出展)/都立拓真高校(防災教育)/東日本大震災国際シンポジウム(講演)

2014年度からの新規プログラム

わが家の災害対応ワークショップ

世の中には、災害に備えるためのガイドブックがたくさん存在しています が、そのほとんどは平均的な家庭を前提としています。「自分の家の地震 対策は大丈夫?」「家族で避難生活することになったら何が必要?」「一 人で逃げられないおじいちゃんが心配」など、実際にはその人の家族構 成に合わせた備えが必要になります。ワークショップでは、一人暮らし、 ルームシェア、家族住まいなどのそれぞれの環境に合わせ、「わが家」なり の災害対応のヒントを学びます。 ※テキストのみの購入も可能です。



東日本大震災後、のべ30万人を越えるボランティアが活動した石巻市 での災害支援は「石巻モデル」とも呼ばれています。支援団体や関係機 関による連携の仕組みが注目されがちですが、その一方では試行錯誤し ながらもボランティアと力を合わせた石巻市民一人ひとりの努力がありま した。その市民へのインタビューを基に作成した冊子では、地域住民と外 部支援の力を一体化させるための工夫や課題について、実際にあった 事例とともに紹介しています。 ※ワークショップや講演の実施も可能です。





メディアでの紹介

[テレビ] NHK東北ニュース×2回/NHK-BS,World「TOMORROW」/TBS「ニュー スバード」/東日本放送ニュース/東日本放送「つなごう!宮城のチカラ」/仙台放送ニュー ス/ミヤギテレビニュース/TBC東北放送ニュース/CNNニュース(中南米カリブ地域) [新聞]朝日新聞/毎日新聞×2回/読売新聞/共同通信×5回/The Japan Times /東京新聞×4回/河北新報×4回/秋田魁新報/石巻かほく×9回/石巻経済新聞/ 石巻日日新聞/石巻日日こども新聞/岩手日報/愛媛新聞/沖縄タイムス/神奈川新 聞/岐阜新聞/京都新聞×2回/熊本日日新聞/高知新聞/神戸新聞/山陰中央新 報/山陽新聞/四国新聞/静岡新聞/信濃毎日新聞×2回/上毛新聞/中国新聞×2 回/デーリー東北/東奥日報/徳島新聞/長崎新聞/新潟日報×2回/西日本新聞/ 日本海新聞×2回/福井新聞/南日本新聞/宮崎日日新聞×2回/盛岡タイムス/山口 新聞/山梨日日新聞/山形新聞/オルタナ×2回/オルタナS×2回/Centumcellae

News(イタリア) / CiviOnline(イタリア) / La Civetta di Civitavecchia(イタリア) / Marida Caterini(イタリア) / Pressenza International News Agency(イタリア) / TRC giornale(イタリア) / Roma Online(イタリア) / Terzobinario(イタリア) / The Courier-Mail(オーストラリア) / その他 WEBニュースなど

「雑誌・書籍」『世界』×2回/『マスコミ市民』/『自治体国際化フォーラム』/『国際協力 のレッスン』(学陽書房)/『3.11: Disaster and Change in Japan』(米国書籍)/ ほかミニコミ・会報誌など

[ラジオ]南相馬ひばりFM×2回/ラジオ福島「ふくしまスマイルキャラバン」/ラジオ石 巻×2回/Date FM[reSTART!石巻]×2回/FM沖縄「ゴールデンアワー」/FM ヨコハマ「THE BREEZE」/RCCラジオ/RKBラジオ「スタミナラジオ」/J-WAVE [TOKYO MORNING RADIO]

ご協力いただいた企業・団体一覧(団体名は略称表記)

物資提供やご寄付、イベントへのご協力など、個人の方からもたくさんのご協力をいただきました。

個人情報の観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人お一人の皆様に心より感謝を申し上げます。

支援活動へのご協力

アースガーデン・オフィス/青山学院大学ボランティア・ステーション/アスヘノキボウ/ イー・コミュニケーションズ/「イシノマキにいた時間」製作委員会/伊藤忠丸紅鉄鋼/ 浦和学院高校/大阪ボランティア協会/大島復興支援東京ボランティアセンター/オ ンザロード/瓦礫を活かす森の長城プロジェクト/環境エネルギー政策研究所/キャン パー/くりらじ/グリーン・アクション/ゲットユニバーサル/減災と男女共同参画 研修推 進センター/高校生平和大使運動事務局/国際協力NGOセンター/コスモスバス/コ ドモ・ワカモノまちing/小鳥の森ゴルフパーク/コモンビート/サービスグラント/さだ企 画/サノフィ/「さようなら原発」一千万人署名 市民の会/ジィ・シィ企画/市民ネット/ ジャスト・ギビング・ジャパン/ジャパングレイス/ジャパン・プラットフォーム/少年画報社/ 震災がつなぐ全国ネットワーク/新宿区社会福祉協議会/新宿NPOネットワーク協議 会/信頼資本財団/セカンドリーグ埼玉/セプテーニ・ベンチャーズ/せんだい・みやぎ NPOセンター/創童舎/ソウル・フラワー震災基金/ソフトバンクモバイル/竹田市社 会福祉協議会/チビタベッキア市/中皮腫・じん肺・アスベストセンター/テサ テープ/ テムジン/東京トヨペット/東北大学/東北福祉大学/戸塚地区協議会/トップツアー /富谷第二中学校/難民支援協会/日蓮宗あんのん基金/日本アイ・ビー・エム/日本 アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 金沢キリスト教会/日本家政学会/日本ケアフィット共 育機構/日本光雷/日本財団/日本フィランソロピー協会/日本ボランティアコーディ ネーター協会/はまのね/パルシステム生活協同組合連合会/パルシック/東日本大

震災支援全国ネットワーク/被災地NGO協働センター/ヒューマンライツ・ナウ/福岡 被災地前進支援/ふくしま地球市民発伝所/フクシマ・アクション・プロジェクト/福島県 有機農業ネットワーク/福島大学災害復興研究所/富士市災害ボランティア連絡会/ 調布から!復興支援プロジェクト/復興庁/ベストラーチ/北海道テレビ放送/ホンダト レーディング/ボランティアインフォ/負げねど飯舘!!/三井住友銀行ボランティア基金 /三菱商事/三菱UFJリサーチ&コンサルティング/武庫川女子大学/武蔵野大学/ モンベル/ヤフー/山形市立第七中学校/ラッシュジャパン/リバイト/リンベル/レス キューストックヤード/レノボ・ジャパン/Asian Disaster Reduction and Response Network / Bellona Foundation / Collectif STOP EPR, ni Penly, ni ailleurs /CWS Asia/Pacific/CWS Japan/D.P.I/Friends of the Earth Latvia/ from grassroots hiroshima/Greenpeace Finland/Huairou Commission /JASMEQ/JEN/JIM-NET/Latvian Union Chernobyl/Lithuanian Farmers and Green Party/NECパーソナルコンピュータ/No Nuke Dieppe/ Nuclear Heritage / Parties 4 Peace / Peace Boat US / Pro Hahnhikivi / SGI Denmark/Share Hapipness倶楽部/Sustainable Sweden Association /Swedish Physicians against Nuclear Arms/The Global Network For Disaster Reduction of Civil Society/UNISDR/U.S.-Japan Council/ Youth for 3.11 / WMA Japan / World Cares Center

活動地域でのご協力

アイトピア商店街振興組合/秋田屋/阿東文庫/荒川七衛商店/石巻うまいもん屋 /石巻仮設住宅自治連合推進会/石巻観光協会/石巻観光ボランティア協会/石巻 工房/石巻グランドホテル/石巻子ども劇場/石巻市こどもセンター/石巻市教育委 員会/石巻市社会福祉協議会/石巻商業高校/石巻商工会議所/石巻市役所/ 石巻専修大学/石巻港大型客船誘致協議会/石巻ZENKAI商店街/石巻立町復 興ふれあい商店街/いしのまキッチン/石巻日日新聞社/石巻ニューゼ/石巻まちなか 復興マルシェ/いしのまきNPOセンター/石ノ森萬画館/いまむら/海と共につながる 会/大島社会福祉協議会/雄勝硯生産販売協同組合/お茶っこケア/女川アートギ ルド・カンパニー/女川魚市場買受人協同組合/女川町基幹産業復興推進協議会/ 女川町観光協会/女川町商工会/小山町社会福祉協議会/河北新報社/かめ七呉 服店/キッズ・メディア・ステーション/キャンナス東北/京屋/慶長遣欧使節船協会/ 気仙沼まちづくりセンター/甲賀市社会福祉協議会/ことぶき町商店街/子どものまち・ いしのまき実行委員会/こはく/コバルト観光/コンパクトシティいしのまき・街なか創生

協議会/サルコヤ/三陸河北新報社/三陸旅行サービス/雫石町社会福祉協議会 / 雫石町役場/震災こころのケア・ネットワークみやぎ/松竹/瑞幸/滝川/遠山不動 産/とり文/西伊豆町社会福祉協議会/西伊豆町役場/復興大学/復興ステーショ ンBAPPA/復幸まちづくり女川合同会社/プロショップまるか/北村市社会福祉協議 会/巻.com/街づくりまんばう/松原荘/まるみ屋呉服店/まんがる堂/萬楽堂/南 相馬こどものつばさ実行委員会/宮城県水産高校/みやぎ生協文化会館アイトピア/ 宮城ダイビングサービス High bridge / みらいサポート石巻/民宿めぐろ/八幡家/ヤ フー石巻復興支援ベース/山口市社会福祉協議会/山口市役所/山徳平塚水産/ 結日丸/ラジオ石巻/渡波獅子風流塾/ワタノハスマイル/American Red Cross /Artsolute/FEMA/FJERA/ISHINOMAKI 2.0/NECHAMA/Oklahoma VOAD/OPEN JAPAN/PDRRN/Peoples' Global Exchange/Serve Moore/Sewalanka Foundation/SRA東北/sweet treat 311/TEDIC/ UMCOR

助成をいただいた企業・財団

AmeriCares / CWS Japan / Give2Asia / Swiss Solidarity / The Japanese American Association of New York / ジャパン・プラットフォーム/三菱商事復興支援財団/みやぎ地域復興支援助成金/ラッシュジャパン





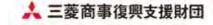














2013年度財務諸表

貸借	対照表
[資産の部]	
現金預金	84,755,406
商品	52,635
仮払金	96,140
前払費用	39,600
未収入金	4,254,161
流動資産合計	89,197,942
その他固定資産 計	2,492,339
資産合計	91,690,281
[負債の部]	
未払金	781,044
前受金	10,292,000
預り金	353,965
未払法人税等	70,000
流動負債合計	11,497,009

工小剂压引燃剂开目				
経常収益 合計	108,510,951			
寄付金収入	23,182,863			
助成金収入	72,313,845			
自己負担金収入	6,306,500			
サポート会員会費収入	2,310,000			
その他収入	4,397,743			
経常費用 合計	108,697,368			
事業費 計	92,684,582			
被災地支援事業費	46,055,954			
被災地支援サポート事業費	13,988,254			
ボランティア育成事業費	32,602,119			
その他事業費	38,255			
管理費 計	16,012,786			
当期経常 増減額	△186,417			
法人税	70,000			
正味財産増減額	△256,417			
正味財産期首残高	80,449,689			
正味財産期末残高	80.193.272			

正味財産増減計算書

単位:円

「サポート会員」になって、PBVの運営を支えてください。

80,193,272

東北での活動、国内外の災害救援、防災・減災への取り組みなど、財政面でのプロジェクト継続と PBVの運営を支える「サポート会員」に、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【年会費】

正味財産合計

[個人] - 口 5,000円 [団体] - 口 100,000円 ※二口以上のご協力も可能です。

【会員特典】

- 会報誌「START | (季刊)と年次報告書をお送りします。
- 各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- 会員同士の集いの場に、ご参加いただけます。

【ご協力方法】

「PBVサポート会員 申込書」をご提出、またはお電話にてご連絡いただいた上、下記まで年会費をご入金ください。

郵便振替

郵便振替口座: 00120-9-488841(※下6桁は右ツメ) 口座名:社)ピースボート災害ボランティアセンター

ゆうちょ銀行

ゼロイチキュウ店(019店) 当座 0488841 社)ピースボート災害ボランティアセンター

クレジットカード

VISA、MasterCardを通じた送金は、下記ホームページから http://pbv.or.jp/support-member/nyukin.html

その他 取引先銀行

三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

15

その他の募金方法に関しては、右記ホームページをご覧ください。 http://pbv.or.jp/donate.html



ピースボートの主な災害支援





阪神淡路大震災 (1995年、神戸市長田区)

ピースボートでも約1.000名のボランティアととも に緊急支援を行った。「ボランティア元年」と呼 ばれ、その後日本の災害支援活動の原点に。



スマトラ沖地震 (2004年、スリランカ)

M9.1という巨大地震により、複数の国で大津 波が発生。スリランカ沿岸部の村へ浄水器や パソコンを届けるなどの支援を行った。



パキスタンカシミール地方大地震 (2005年、パキスタン)

支援の届きづらい冬の山岳部での被害。避難生 活は過酷を極めた。防寒具やブルーシートの提 供、仮設避難スペースづくりなどの支援を実施。

2013年度 活動報告書

発行:一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

発行日: 2014年6月23日 編集:合田茂広、山本隆、小林深吾、田山圭子

デザイン: 森大樹

写真: Kazushi Kataoka、Shoichi Suzuki、Yoshinori Ueno、 Mitsutoshi Nakamura, Kenji Chiga, 37framesphotography Tracy Taylor & Dee Green

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A

TEL: 03-3363-7967 FAX: 03-3362-6073

E-MAIL: kyuen@pbv.or.jp URL http://pbv.or.jp/

「ピースボート」とは

ピースボートは1983年の設立以来、世界各地を巡る「国際交流の船旅」を コーディネートしてきた非営利の国際NGOです。世界中の人々との出会いを 通じて、国と国との利害関係を越えた草の根のつながりをつくることを目指し て、これまでに80回以上の航海を行ってきました。2013年までの30年間で、 世界200以上の国と地域をめぐり、のべ5万人以上の方々が参加しています。



※ピースボートは、国連経済社会理事会との特別協議資格を持つNGOです。

